

西三条第(藤原良相邸)の発掘調査 —平安時代前期の邸宅—

<http://www.kyoto-arc.or.jp>
(公財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

はじめに 2020 年度に平安京右京三条一坊六町跡の発掘調査を行ないました。この場所は、平安宮の朱雀門から南西へ 500 m ほどの場所に位置します。隣接地での 2001 年度の調査では池から「斎衡四年 三條院正倉帳」の墨書がある題簽軸、2011 年度の調査では池 250 より「三條院鈞(約)殿高坏」と書かれた墨書き器が見つかっています。これらの資料に基づき、この地には「三條院」が存在したことがわかり、これが右大臣・藤原良相の邸宅跡である「西三条第」にあたると考えられています。

見つかった建物 今回の調査地 東側では 2011 年度に調査が行なわれ、平安時代前期の池 250 (写真 3) や建物が見つかっています。

今回の調査でも、同時期の池 750 や建物 (写真 1・2) を検出しました (図 1)。

各建物について見てみましょう。建物 1 と建物 2 は同規模で、南北に位置をずらして建て替えられたものと考えられます。先後関係は不明です。これらの建物は池 750 の北側正面に位置することから、南側に広がる池を意識して建てられたと考えられます。

建物 1・2 西側にある建物も建て替えがあることから、計画的に配置された 2 棟一組の建物の建て替えと考えられます。

また建物 4 は、東・南底が 8 尺 (2.4 m)、西底が 9 尺 (2.7 m) となり、西底は他の底より広くなっていることから、西側に広がる池 750 を意識して建てられたと考えられます。

池と水の流れ 池 750 は宅地の西部に造られた池で、検出したのはその北東肩部にあたり、2001 年度に北西肩部を検出していることから、この池は北端の東西幅が約



写真 1 今回の調査で見つかった建物 4・池 750・溝 599 (北から)



写真2 建物1・2（東から）



写真3 2011年度調査で見つかった池250・溝43（南東から）

43 mにも及ぶことがわかりました。また池750に流れ込む溝599は2011年度の調査で検出した溝の延長部にあたり、池250西側の建物の下を通り、建物4を避けるように少し曲がりながら約48 mにわたりて西に向けて水を流していることが確認できました。勾配が緩やかなこの溝は、宅地内を流れる

「流れ」の意匠として造られた可能性が考えられます。

まとめ 前述したとおり、この地は藤原良相の「西三条第」と考えられており、調査の結果、邸宅には2つの池があることがわかりました。『日本三代実録』の貞觀8年(866)3月23日条には「清和天皇が良相西京第に行幸す」と記

載されています。清和天皇はこの地に滞在し、これらの園池を建物から愛でたのでしょうか。

園池を眺めた主人公はさておき、この邸宅は池を中心とし、その周間に大小の建物が配され、優雅な空間が広がっていたことは確かなことです。

(西田倫子)

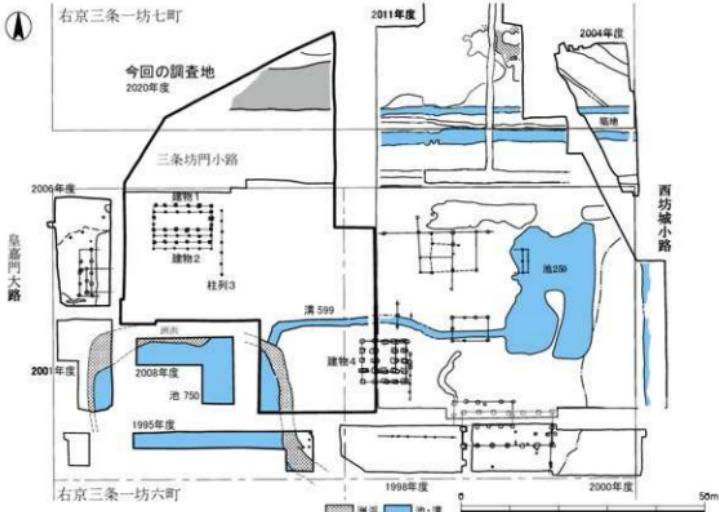


図1 造構配図図 (1:1000)